猪名川町立つつじが丘小学校　学校だより



つつじが丘

令和８年１１月５日号

学力向上をめざして～全国学力学習状況調査の結果より



４月に、６年生を対象に「全国学力・学習状況調査」が実施されました。この調査は、児童の学力や学習状況を幅広く把握し、今後の学習指導の充実に役立てることを目的としています。

本校では、調査結果を分析し、学習指導における成果と課題を明らかにするとともに、子どもたちの学習意欲等の向上につなげていきたいと考えています。今後も、子どもたちが確かな学力を身に付け、主体的に学ぶことができるよう、授業改善や指導の工夫・充実に努めてまいります。

① 学習について

【国語】

◎ 国語では問題形式別に見ると、選択式で高い正答率が見られ、文章や資料から必要な情報を読み取り、選択肢の中から適切なものを判断する力が身に付いてきています。一方、記述することに一定の課題が見られます。しかし、全ての記述式問題において無解答を避け、最後まで自分の考えを書こうとする姿勢が見られました。「分からないから書かない」のではなく、最後まで考え、表現しようとする粘り強さは、強みと言えます。

➡ 今後も、この粘り強く課題に向き合う姿勢を大切にしながら、「なぜそう考えたのか」「どの言葉や文章を根拠にしたのか」を明確にして、自分の考えを文章で表現する活動を各学年の授業に意図的に取り入れていきます。

▲ 文章から必要な部分を引用し、それを根拠として自分の考えが伝わるように書く問題では、引用した内容と自分の考えを明確に区別して表現することに課題が見られました。
このことから、文章の内容を理解するだけでなく、「本文のどの部分を根拠として使うのか」「その根拠から自分は何を考えたのか」を整理して表現する力を育てる必要があります。

➡ 今後は、本文から根拠となる部分を見付ける→自分の考えを整理する→根拠と考えを結び付けて書く、という学習過程を大切にし、段階的に指導していきます。また、問題文や設問の条件を正確に捉えること、書いた文章を読み返して条件を満たしているか確認することも習慣化し、相手に伝わる文章を書く力がつくよう取り組みます。

【算数】



◎ 最後まで粘り強く解答し、自分の考えを表現しようとする姿勢が見られました。
特に、言葉や数、式を用いて求め方や理由を書く問題では、正答に至らない場合でも、最後まで自分の考えを書こうとする姿勢が見られました。これは、課題に対して粘り強く取り組み、自分の考えを表現しようとする本校児童の強みです。

➡ 今後は、この「最後まで考えて表現しようとする姿勢」を生かしながら、単に答えを求めるだけでなく、「なぜその答えになるのか」「どのように考えたのか」を、図・数・式・言葉を用いて説明する活動を充実させていきます。

▲ 表から根拠を見付け、それを用いて自分の考えを説明することに課題が見られました。二つの表を比較して集計の誤りを見付け、その根拠を表の中の数と言葉を用いて記述する問題では、誤りそのものには気付いていても、「なぜそう言えるのか」という根拠を整理し、文章として表現することに課題が見られました。
このことから、課題を解決するための知識や技能だけでなく、自分の考えを根拠と結び付けて説明する力をさらに育てる必要があります。

➡ 今後は、「答えを出す」ことに加えて、「どこからそう考えたのか」「なぜそう言えるのか」を説明する活動を意図的に設定します。まずはペアやグループで自分の考えを伝え合い、友達の説明を聞いて考えを修正・補充する機会を設けます。「根拠を示して説明する」経験を積み重ねることで、徐々に自立して自分の考えを表現できるようにしていきます。

【全体を通して】



今回の調査結果から、本校児童には、課題に対して最後まで諦めずに取り組み、自分の考えを表現しようとする姿勢が見られました。特に国語では、文章や資料から必要な情報を読み取り、適切に判断する力が身に付いています。

一方で、国語・算数に共通して、「答えを見付ける」ことから一歩進んで、「なぜそう考えたのか」「何を根拠にしたのか」を整理し、言葉で説明する力に課題が見られました。また、図・表・資料など複数の情報を関連付けて読み取り、その情報を根拠として自分の考えを表現する力についても、今後さらに育成していく必要があります。

これから、各教科において「根拠を明確にして説明する活動」を意図的に取り入れた授業に取り組む必要があります。

今回見られた「最後まであきらめずに書こうとする姿勢」という強みを土台として、書く・説明することへの自信を育てていくことを、今後の授業改善の重点としていきます。

② 児童質問紙から

・決められた時刻に寝ていない児童、スマートフォンで SNS や動画の視聴を長時間している児童の正答率が低い傾向にありました。

・「総合的な学習の時間で、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」とういう質問では、肯定的な回答をしている児童の割合が低く、本校の総合的な学習の時間の取り組み方に課題が見られました。次期学習指導要領では、「総合的な学習の時間」が「総合的な探求の時間」（仮）と名称もかわり、より自ら課題を見つけ、考え解決する力が育つことが必要とされています。本校においても総合的な学習時間がより充実するよう取り組んでいきます。